

めざすはさらなる言語活動の充実！

～BLUE MARBLE English Communication の新たな挑戦～

加賀田 哲也

◆小・中・高を通して「言語活動」の充実を

現行の外国語教育の最たる課題のひとつに、「小・中・高の連携」が挙げられる。学習指導要領では、小・中・高が連携して、言語活動の充実を図ることが記されているが、実際はどうだろうか。とりわけ、高等学校では、未だに訳読を主とした授業が散見される。訳読自体は必要であるとしても、それに終始することは望ましくない。できる限り言語活動を取り入れてほしいと願う。

そもそも人間は、自分を理解してもらいたい、他者を理解したい、人とつながりたい、といった欲求をもつ存在である。この欲求充足の手段として「言葉」がある。換言すれば、言葉は関係性を育む複雑な媒体であり、故に「人間理解」を促すものである。よって、今後の英語教育においては、言語活動を通して学習者が自身の考えを広げ、深め、創造し、発信する過程で、いかに相互の人間理解に寄与できるかがこれまで以上に問われることになる。

◆BLUE MARBLE English Communication の新たな挑戦

今回、筆者が編集に携わった上記図書(以下、*BM*)の改訂版では、ご好評いただいている構成面での使い勝手や QR コンテンツの充実は現行版を継承しつつ、学びを促進するために、高校生にとってより親しみやすい題材、知的好奇心を刺激する題材を取り入れたり(例えば、「外国人観光客が語る日本の魅力」「時代を映す鏡としてのファッション」「アニメーション監督 堤大介」「宇宙でも地産地消」)、導入や課末など、読解前後の活動に工夫を施した(例えば、導入の写真や図表において、題材の背景知識をさらに深めるための新たな素材を取り上げたり、課末 REPRODUCTION では、レッスン全体の内容を問うための客観問題と、レッスン全体の論理展開を整理するための Logic Flow を新設した)。

このほか、教科書を使いやすくするため、導入・課末を含め、本課全体を完全見開き構成にしてより運用しやすくしたり、QR コンテンツをより活用していただけるように、活動内容(音声再生・発音判定・読解速度の計測)と各チェック欄を記載した。

改訂版 *BM* では、4 技能 5 領域を統合しながら、総合的な学力の涵養を図るとともに、生徒を幅広いジャンルの内容豊かな題材としっかり向き合わせることで、自身の人生観、社会観、文化観、言語観を(再)構築し、発信できるようにつなげていきたい。このような指導が、生徒の論理的、批判的、創造的な思考力の育成にもつながっていく。

また、昨今の大学入試問題に見られる英文の長文化にも十分対応できる力を育成するため、引き続き、各レッスンのはじめに全パートの英文を掲載し、英文の量に圧倒されることなく、粘り強く読み続けることができるように構成している。そして、本文の内容理解に加え、図表を用いて本文の論理展開を確認したり、写真やイラストを見て本文の内容を自分の言葉で再生したり、本文に関連したトピックについて話し合ったりする。課末では、レッスン全体のリテリング活動を行ったり、本文に関連した別素材でのリスニング・表現活動を行ったりすることができる。発音スキル、読解スキル、文法知識の活用に変化した LANGUAGE FOCUS という差し込みレッスンもある。

今後、ますます不確実性、複雑性が高まる社会を生き抜くにあたり、他者への配慮を怠ることなく、多様な意見や考えを受け入れ、状況に応じて、自らさまざまな学習スキルや思考スキルを選択・活用し、主体的に自身の意見や考えを表現したり、伝え合ったりできる生徒を育成したいものである。

(大阪教育大学 教授)

Revised *BLUE MARBLE English Communication I*

代表著者